

国際交流

台湾南投県友好交流訪日団が美祿市長を表敬訪問

9月26日、台湾南投県友好交流訪日団が美祿市を訪れ、村田市長を表敬訪問しました。

台湾南投県と美祿市は平成23年（2011年）11月に「友好交流の促進に関する確認書」を締結しており、このたび南投県政府の協力により、台湾ランタンフェスティバルで展示されたランタンを美祿ランタンナイトフェスティバルで展示できることになったことから、美祿市が美祿ランタンナイトフェスティバルに招待したものです。

表敬訪問では、村田市長が歓迎のあいさつを述べるとともに、訪日団団長の陳朝旺南投県政府秘書長より「今後も引き続き交流を続けていきたい。」と挨拶がありました。



地域振興

台湾のランタンが、美祿の地を飾る！！

9月27日、美祿市役所裏の伊佐川河川公園で「2014美祿ランタンナイトフェスティバル」が開催されました。

このイベントは、昨年まで開催されていた「美祿アンモナイトフェスティバル」の後継事業として、地元企業や団体などで行う実行委員会（秋山貴文 実行委員長）により、地域振興などを目的に第1回目として開催されたものです。

会場内外に飾られたランタンは、美祿市が交流をすすめている台湾南投県や南投県水里郷、南投県信義郷、南投県集集鎮から譲り受けたものや実行委員会自らが制作されたドラゴン（高さ約5メートル）など約1,000個が飾られ、それぞれが優しい明かりを灯し、会場内外を彩っていました。

また、会場内には、秋吉台自然動物公園サファリランドによる動物ふれあいコーナーや市が奨めるジオパーク・六次産業・国際交流ブース、更には地元企業の紹介ブースや地元を中心とする飲食店ブースなどが設けられ、多くの来場者を楽しませていました。



日も暮れた18時からは、台北駐福岡経済文化弁事処長や南投県政府関係者などの出席のもと、ランタン点灯式が開催され、秋山実行委員長が「美祿ランタンナイトフェスティバルを通じて、台湾と美祿市の絆を国内外に発信したい」とあいさつされ、関係者がスイッチを押すと会場は優しい光に包まれ、来場者からは大きな歓声があがりました。

また、点灯式終了後には、奇岩で世界的にも有名な台湾新北市にある野柳地質公園から寄贈された、世界にも2つしかない「女王頭（クイーンズヘッド）」レプリカの除幕式も開催されました。

フェスティバルもいよいよ終盤に差し迫った頃には、美祿市民会館の壁を利用したプロジェクションマッピング（実物と映像をシンクロさせる映像手法）がお披露目。太古から現在までの美祿市や秋吉台の四季などが映し出され、会場からはより大きな歓声があがりました。

最後は、このフェスティバルをずっと未来につなげていきたいという思いも込められ、約800個のスカイランタン（風船）が夜空にはなたれ、フェスティバルの幕が閉じられました。

当日は、市外、県外からも多くの人を訪れ、秋山実行委員長は、「思っていた以上に多くの人に来ていただいた。来年以降も拡大しながら続けていければ。」と話されていました。



ジオパーク 日本ジオパーク全国大会に参加しました。

9月27日㈫から30日㈫まで、第5回日本ジオパーク全国大会が南アルプスジオパーク（長野県伊那市）で開催され、美祢市からは村田市長が参加しました。

本全国大会は、日本ジオパークネットワークに加盟している全国約50地域の住民やガイド、首長や行政の担当者の他に、ジオパークに関わっている研究者や企業、団体などが集まって毎年行われています。各地域の活動事例やジオパーク活動を行う上でのアイデア、問題点などを共有し、話し合うことで、自分たちの地域の活動をより良いものにしていくことが大きな目的です。今回の大会は延べ約6,000人も参加者で大変賑わいました。

大会では、ジオパーク活動を行っている全国の首長約30人による「首長セッション」（意見交換会）が行われ、村田市長も参加しました。本セッションでは、テーマを「ジオパークが拓く地方自治の未来」とし、ジオパークを活用した地域活性化について意見を交わしました。



ジオパーク活動のとりくみについて 学会で特別講演を行いました。

10月3日㈫に、日本応用地質学会中国四国支部の研究発表会が山口大学で開催され、村田市長が特別講演を行いました。講演は「Mine秋吉台ジオパーク構想のとりくみ～これまでとこれから～」と題し、これまで美祢市で行ってきたジオパーク活動や今後の展望について、中国地方の国公立大学の教授を中心とした約80人の参加者に紹介しました。



企業誘致

株式会社筑波化成の美祢市進出が決定しました。

株式会社筑波化成（本社：東京都）が、曾根工業団地（大嶺町東分）に進出することが決定しました。

これに伴い、9月18日㈫に市役所2階応接室にて、山口県商工労働部木村進部長の立ち会いのもと、同社と美祢市による進出協定の調印式が行われました。

調印式で市長は、「雇用の創出と地域の活性化に貢献して頂けるものと信じ、市としても出来る限り支援させて頂く」と述べました。

株式会社筑波化成の中島晋取締役社長は、「事業にまい進し、地域に根差し貢献できるような企業でありたい」と述べられました。



写真左から、中島晋取締役社長、木村進県商工労働部長、村田市長

進出計画の概要	
事業所名	株式会社筑波化成
進出先	美祢市大嶺町東分字流田 1133番1他（曾根工業団地）
敷地面積	28,042㎡
建築面積	8,040㎡（既存物件購入）
事業内容	プラスチック再生材の粉碎・ 加工・販売
操業予定	平成26年11月
設備投資額	約232百万円
従業員数	当初11人、3年後43人(予定)

企業の概要	
会社名	株式会社筑波化成
代表者名	取締役社長 中島 晋
本社所在地	東京都新宿区西新宿七丁目 22番35号 西新宿三晃ビル 株式会社明治ゴム化成内
設立	昭和56年（1981年）10月
資本金	180百万円
従業員	71人（2014年7月末現在）
事業内容	再生材の加工・販売及びプラ スチックパレット製造